



敬老の日「読書のすすめ」こころゆたかに生涯読書

「本を読むと若くなる」といわれます。それは、読書が心の健康に役立つからです。本を読むことが、頭の体操になるからです。

「本を読むと美しくなる」ともいわれます。すぐれた本といっしょに呼吸し、心を豊かに働かせている人は自然に目の輝きがまして自信のある顔立ちになるのでしょう。

～2015・読書のすすめより～

“90 歳からの詩人” 柴田トヨ著「くじけないで」「百歳」が
[八千草薫]主演で映画化されました。上映前にぜひご一読されては如何でしょう。



～一般読書マラソン（100冊読破）中間報告～

一般			中・高生		
位	エントリーナンバー	冊数	位	エントリーナンバー	冊数
1	57	132	1	21	92
2	32	94	2	22	38
3	24	91	3	11	12
4	16	85	4	52	5
5	47	81	4	65	5
6	7	69			
7	36	68			
8	41	67			

★

★★ 今年もふるさとでの「短期利用者」が25件あり
喜界町の特色を題材にした自由研究等に取り組んでいる姿が多数見られました。 ☆☆☆

【毎週土曜日、午後2時からおはなし会】

＜10月のミニ映画予定＞



5日 金のかちょう
12日 オオカミとヤギごっこ
19日 いじめっ子サルと正直カニさん
26日 あしたともち

☆ミニ映画の内容は都合により変更になることがあります

図書館カレンダー（10月）

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

※ は休館日です。

・8月の貸出し冊数 4,892 冊
・H25 年度累計 21,991 冊
・8月の利用者数（入館者） 3,335 名
・H25 年度累計 10,838 名

⇒【一般参加者 66名】【中・高生参加者 10名】

⇒【読書マラソン参加希望者・・常時受付中！】

敬老の日におすすめする本		喜図書(有)
著者・書名	内 容	
シルバー川柳 誕生日ローソク吹いて立ちくらみ	「家族みんなで笑いました」と読者の方から大反響！ シニア世代を中心とした、人生の達人たちによる川柳傑作選。	
海賊とよばれた男上下 百田 尚樹	2013年本屋大賞第一位！実在の人物をモデルにした百田尚樹作品初の本格ノンフィクションベル。	
Ab さんご 黒田 夏子	「早稲田文学新人賞」を受賞した「75歳新人女性作家」の、若々しく成熟したデビュー作。 第148回芥川賞受賞！	
心 姜 尚中	親友を失った青年と、ある秘密を抱えた先生の間で交わされたメールを軸に織りなす喪失と再生の物語。	
また次の春へ 重松 清	厄災で断ち切られたもの。それでもまた巡り来るもの。喪失の悲しみと再生への祈りを描く7つの小さな物語。	
桜ほうさら 宮部 みゆき	父の汚名をそそぎたい。そんな思いをを胸に秘めた笙之介は…人生の切なさ人々の温かさが心に沁みる	
わがまだだっていいじゃない 室井 摩耶子	現役最高齢のピアニスト92歳の室井摩耶子さん。その自立した生活には、幸せな長寿のヒントがいっぱい。	
老いてこそ遊べ 遠藤 周作	老いてますます人生を愉しみ、遊びを極めた作家の達人的生き方40篇！著者生誕90周年記念エッセイ。	
すてきなおばあさんのスタイルブック…田村 セツ子	女性初のイラストレーターとして75歳の今も活躍する田村セツ子のおしゃれの秘密をカラーイラストで公開	
あら、もう102歳 金原 まさ子	49歳ではじめた俳句、100歳で始めたブログ。 “アラ100女子”のための新しく楽しい生き方のヒントを公開！	
わりなき恋 岸 恵子	容赦なく過ぎ行く時に抗う最後の恋。愛着、束縛、執念あらゆる感情を呑みながら謳い上げる人生賛歌。	
転んでもただでは起きるな！ 安藤百福発明記念館(編)	苦難のすえに、インスタントラーメンを発明して世界の食文化を変えた男の絶対諦めない波瀾万丈の人生。	

★ 他にも多数館内に展示してあります。「敬老の日」を機にどうぞご利用下さい。

★ 喜界島を翔け廻る「読書マラソン」がスタートして5ヶ月になります。目標冊数『100冊』を早々と達成した方もございます。ご自分のペースで秋の夜長の読書をお楽しみ下さい。最終報告は3月の図書館だよりで…！お楽しみに…

《喜界島の歴史・伝承文化を探る》

～喜界島の集落名とその理由について③～ 8月号からの続き

また、楡井範正氏の「姓氏と家紋」の話によると、小野津の語源は、山のすそ野やなだらかな傾斜地にある津（港）のことであるという。

荒木（撲？）とは、新しく開墾した田を意味し、その地名は飛騨（岐阜）・能登（石川）・筑前、筑後（福岡）・丹波（京都）・伊賀（三重）等にもあるという。

天正16年（1588年）熊本から長崎に移住した「荒木宗太郎」は、文禄初年に豊臣秀吉から朱印状を交付され、江戸時代の初期、自ら船に乗り込み安南（ベトナム）まで海外貿易に赴いた年若で人気のあるはなやかな若者である。（ベトナム中部のホイアンを自ら訪れて活躍した海商の一人の荒木宗太郎は地元の支配者、グエン氏の娘をめとった。この娘が諏訪神社（長崎市）の祭礼「長崎くんち」で有名なアニオーさんである。）（朝日新聞2013. 4. 23「大ベトナム展の記事から」）

この朱印貿易家「荒木宗太郎」が、喜界島荒木港を寄港地としていたため、その名にあやかり「荒木」というムラ名がつけられたともいわれている。

また、昔の冒険航海者（倭寇）の寄港地であったとも考えられ、琉球第一尚氏六代目の尚泰久（ショウ ヤスヒサ）時代（1454～1460年）に倭寇と認められる勝連親方の阿摩和利が一時期居住していたともいわれている。喜界島にも関係する阿摩和利についても記しておきたい。

阿摩和利は、薩摩阿多平氏の末裔（子孫）と思われ、大島海峡の古仁屋周辺や加計呂麻島を根城にし、薩摩の阿多に程近い坊ノ津と琉球の勝連を相互に結び密貿易をした「倭寇」の中心人物であると考えられる。この阿摩和利は道之嶋全体の航海権を持ち一時期、喜界島の荒木や手久津久に住んでいたといわれており、島の女との間に一男が生まれ、その子が喜界島で力を持っていた「勘樽金」といわれている。この「勘樽金」は白水から藩政時代に山田へ移住した泉家の先祖であるといわれている。（文責：登山典壽）

：参考 文献：南島郷土誌～倭の古代からワチャーシマ・ワンナームラまで～井上 忍著

秋をさがしに...

昼の陽ざしは暑くても自然界にはすっかり秋の気配が・・・。
秋をさがしに外へでかけましょう。あ、高く澄んだ空にトンボの群れ！
今までどこにいたのかな。秋の虫や草花の本、たくさんありますよ。



あたらしい本



《おとなの本》

- ・疎開した四十万冊の図書 金高 謙二 ・思考力 外山 敏比古
- ・完本寺内貫太郎一家 向田 邦子 ・光秀の定理（レンマ）垣根 亮介
- ・断固として進め 江上 剛 ・レクリエ 2013. 秋号

《子どもの本》

- ・図書館に児童室ができた日 -アン・キャロル・ムーアのものがたり-
- ・よるのきかんしゃ ゆめのきしや トム・リヒラヘッド
- ・めざせ！給食甲子園 こうやま のりお
- ・よかたい先生一水侯病から世界を見続けた医師-原田 正純-

☆その他多数入っています。

※「はだしのゲン」をリニューアルしました。（全10巻）

よねちゃんのおすすめの一冊



『離島の本屋』

22の島で『本屋』の灯りをともす人たち

ばく じゅんり
朴 順梨 著

日本には、北から南までたくさんの離島と呼ばれる島がある。この本には、紙面上22の島しか登場していないが、奄美からは奄美・沖永良部・与論の3つの島が掲載されている。どの島も抱えている問題は同じなようだ。そのうち、喜界島も掲載されるかな・・・。